

# 私 の 工 夫

対話を通して学びを深める  
授業づくり  
〜思考ツールとICT機器を活用して〜

笠岡市立神内小学校

指導教諭 平井 絵美



## 1 はじめに

本校は、令和2年度より「主体的に学び 伝え高め合う子ども育成」をテーマに掲げ、生活科・総合的な学習の時間を中心に、地域探究学習に取り組んでいる。研究を始めた頃の児童は、自分たちで課題を設定したものの、自分の思いや考えを友達に伝えることができなかったり、課題解決に向けての話し合いをどのようにしていけばよいか戸惑ったりする姿が多く見られた。そこで、児童同士が活発に対話し、自分たちの考えを広げ、深めていくための学びの手段として、思考ツールとICT機器活用に着目した。思考ツールとICT機器を活用した授業づくりを積み重ねていくことで、児童自ら見出した課題を友達と共有し、その課題を追究するために、自分

## 2 全校での取組

の思いや考えを伝え合いながら様々な方法で考える姿や場面が多く見られるようになった。そこでこれまでの全校での取組について紹介したい。

日々の授業の中で、児童が思考ツールとICT機器を活用し、対話が活発に行われるよう、各学年で身に付けたい力を系統表にまとめた。また、授業の中でこれらをすぐに活用しながら思考することができるよう、朝学習の時間に「スキルアップタイム」を設け、思考ツールとICT機器の基礎を学習することに取り組んだ。

### ①スキルアップタイムの取組

毎週木曜日に思考ツール活用、金曜日にICT機器活用

を設け、それぞれの系統表を基に、低・中・高学年でどのように取り組んでいくかを話し合い、スキルアップタイムの内容を決定した。また、互いの実践を交流する研修を行い、児童の実態に合わせながら系統表を見直した。

### 【思考ツール活用】

思考ツールの活用では、比較・分類して考えたいときはベン図、整理・分析して考えていきたいときはXチャートやYチャート、統合して考えたいときはピラミッドチャートなど、ツールの種類や活用方法、交流の仕方の練習に取り組んだ。

### 【ICT機器活用】

ICT機器の基礎的な技能を全児童が習得できる時間を意図的に設定し、タイピング練習やICT機器の操作方法の学習に取り組んだ。そして、様々なアプリケーションを使つての意見交流を行うなどの練習を行い、授業の中で活用できるように取り組んだ。

### ②系統表作成及び見直し

小学校6年間、中学校3年間で身に付けたい力について話し合い、思考ツールやICT機器活用についての系統表を作成し、それを基に実践を重ねてきた。思考ツールでは、研究1・2年目は、教師が

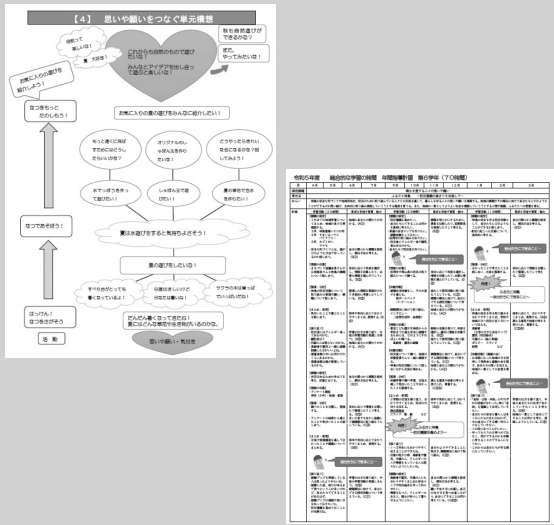
用意した思考ツールを活用して考えることができることからスタートし、3・4年目では、自ら思考ツールを選んで考えるところを目指した。この学習を積み重ねてきた今の5・6年生たちは、45分の授業の中で、課題解決していくために自分の思考に合った思考ツールを選択しながら、課題解決に向け思考している姿が見られるようになってきている。また、少しずつではあるが、これまで習得してきた思考ツールから離れ、自分たちの考えやすいように矢印や囲みを使いながら考えることができるようになってきている。

## 3 思考ツール・ICT機器を活用した授業づくり

### ①児童の意識（思考）の流れを考えた授業づくりと単元構成

児童自身が学習課題を自分事として捉え、「考えたい！話し合いたい！」学習過程となるよう、児童の意識（思考）の流れを考えることを大切にしている。対話を生むために、必ず個人思考の時間をとり、そこからペア・グループ活動、全体交流という流れにしている。（写真①）また、学習・探究

＜单元構成＞生活科・総合的な学習の時間



写真②

＜個人思考＞



＜グループ活動＞



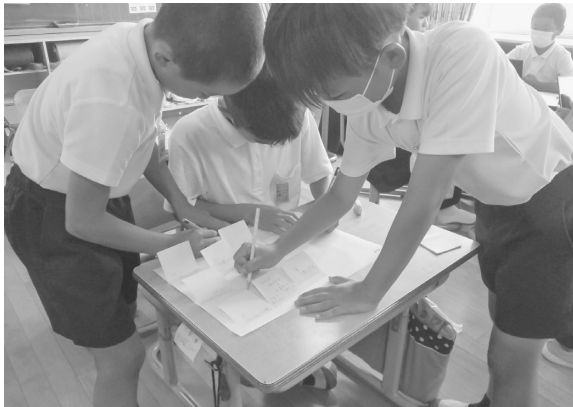
写真①

プロセスを繰り返し意識した単元構成を考えた。思考ツールを活用することが目的になってしまわないよう、課題解決に向けて、どんな力を高めていきたいかを教師自身が明確にした授業づくりに努めている。

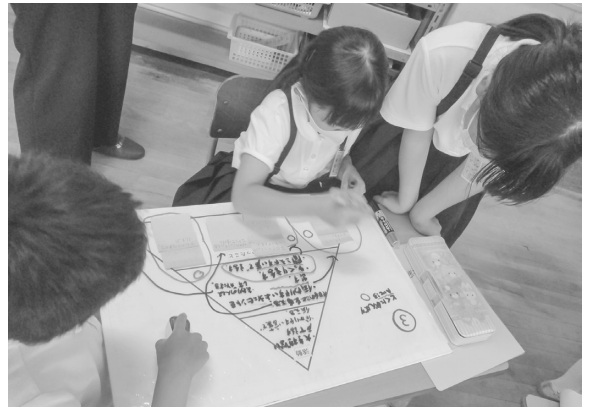
(写真②)

②すべての教科・教育活動の中で活用

学校生活の中には、日々の授業、学級活動、特別活動など、児童が課題解決に向け思考する場面が数多くある。研究を始めた頃は、教師が意図的に活用場面を児童に促していたが、今では、みんな考えを出し合いた



写真③＜付箋を持ち寄って＞



写真③＜ボードを使って＞

いとき、話をまとめていきたいときなど、児童自ら自分に合った方法を選び、活用している。(写真③)

4 おわりに

この研究を始めて、今年で5年目となる。現在6年生を担任しているが、自分の思考に合ったツールを活用して考えをまとめたり、グループで考えを深めようとしたりしている姿に、これまでの積み重ねの成果を実感している。思考ツールもICT機器も、児童が学ぶための手段の一部である。これまで身に付けた力を活用しながら、自分の思いや考えを伝えることの大切さや友達と一緒に考えを深めていくよさを感じてほしい。そして、対話を通して学びを深めていくことができる授業づくりを目指し、これからも学校全体で取り組んでいきたい。



写真③＜ICT機器を活用して＞



い』を立てる」ために、毎時間の振り返りでは、目標に対する達成度合いと共に、「今日のWhy」を確認させている。企業でもよく使われる、「なぜ」を繰り返すことで、原因を徹底的に追究し、改善策を見つける分析方法を参考に、今日の授業で検証しきれなかった事柄や、新たな疑問を個人で振り返ることで、今後の活動で何をすべきかの見通しを持つことができる。授業でのグループ活動を経て、個人思考で本日の協議や発表を振り返ることで、深めるべき点や新たに調査・分析する必要がある点を発見することができ、次時のグループ活動

観光ビジネス 振り返りシート		
自分の50分を振り返ろう		
本時の目標	月 日 ( ) 時限	
目標達成度	よくできた A	できた B できなかった C
50分出てきたキーワード 新たに発見したこと		
今日のWhy		
今日の振り返り		

が活性化される。

## (2) 協働的な学びによる探究

テーマについて、まずは家庭学習等で個人思考をし、考えを書き出す。授業ではそれを持ち寄り、4人程度からなるグループでの活動を行うことにより考えが広がり、深まりを見せる。しかし慣れるまでは、遠慮して意見が言えなかつたり、一人の発言に疑問を持たず、そのままグループの意見として発表まで至ってしまったりする。有効なグループ活動のため



プレゼンルームで協議

に、①グループ内での司会や記録、時間管理や発表等、役割を持たせる、②ICTを活用し協議内容を視覚化し共有する、③机間指導(自分の感じたWhyを大切にすると、良い意見を取り上げて協議対象とする)により積極的な協議を促す、を個別に指導していくことが重要である。

## (3) 「表現」による探究

生徒たちは、ロイロノートを活用しグループでスライドにまとめ、情報共有をすることで、新たな課題の発見につなげ、さらに仮説を立てて検証していく探究のサイクルを回し、課題解決へと向かっていく。そのための「表現」活動として、ICTを活用した「共有」と「発表」を行っている。レポート提出したものを「共有」することにより、他のグループの見解を参考にし、自分たちのグループの見解を見直ししていくことができる。また「発表」として、グループごとにプレゼンテーションをする

ことで、自分たちの考えを的確に伝えるためにはどのような資料を提

示すればよいか、相手を納得させるためには、どのような説明をすればよいかを考え、エビデンスを求めてさらに探究を深めたりすることができると「調査・分析・まとめ・発表」のサイクルは、単発的な授業スタイルではなく、教科書のあらゆる単元学習や課題解決に向けたグループ活動においても、科目学習のスタンダードとして位置付けている。生徒たちは、日常的にタブレット端末を活用してこのサイクルを回し、課題解決に向けた考えを深めている。

## 3 おわりに

PBLを取り入れた授業で最も心掛けることは、教師がしゃべりすぎず、目標を明示し、活動の趣旨と内容を的確に指示することだと考える。

教師はファシリテーターに徹し、生徒自身が仲間と協力し、自ら行動することにより、主体的に課題解決を成し遂げたという自信を持つ授業を、今後も作っていきたい。